

C 研究会合宿・研究会が主体となった学術交流活動

成果報告書

長谷部葉子（慶應義塾大学 環境情報学部准教授）

- ・活動名：2023年度木曾町サマーキャンプ
- ・活動期間：2023年8月18日～2023年8月20日
- ・活動場所：長野県木曾郡木曾町全域

【活動概要】

長野県木曾郡木曾町の中学生を対象に、慶應義塾大学の学生・教授が「自己理解」をテーマとしたワークショップなどを中心としたコンテンツを3日間のプログラムで実施した。大学生とともに中学生が地元である木曾町をめぐる中で地域を見つめ直し課題を発見し、その解決策を自分なりに考え成果物として作成し発表するといった事を行った。

1日目では、中学生に、それぞれが住む木曾町内の木曾福島、開田高原という地域について「好きなおところ」や「より良くなって欲しいところ」を挙げてもらったのちに、自分であつたら「より良くなって欲しいところ」に対してどのようにアクションを起こせるか、ドラえもんのみみつ道具に例えて考えてもらった。



2日目では、地域で活躍する6名の大人の方々にご協力いただき、中学生が1日目に設定した目標に関する質問を中心に、1人当たり30分程度お時間をいただきインタビューさせていただいた。どういった活動をして地域を盛り上げているのかを中学生にきいてもらい、また長く活躍されている地域の大人の方々の目線から、中学生が地域内で実現したいと考えていることが可能であるか、その改善点などフィードバックをいただいた。

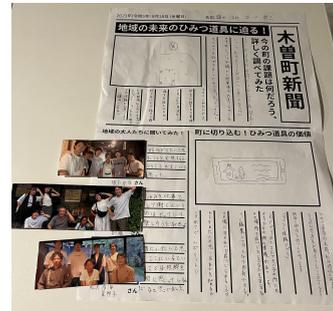


3日目では、1日目のブレインストーミング、2日目のインタビューでのフィードバックを踏まえ、自分がどのように地域で活躍できるかを改めて考え、中学生自身にその姿がリアルにイメージできるように新聞記事のような形にまとめ地域の大人の方々の前で大学生とともに発表を行った。



【研究成果、今後の展望】

研究成果として、中学生に街について自分たちができることについて考えてもらい、インタビュー内容を含めて発表をすることで自分の住んでいる地域に真剣に向き合い、その魅力を自らの言葉で言えるようになった。その際にただ発表するだけでなく、インタビューで印象的だったことや、インタビュー前後で変わったことなどを意識して発表を行った。インタビューを通じて、自分の地域に魅力を感じていなかった中学生に対して、ないものを欲して外部の世界に目を向けるだけでなく、自分の生まれ育った地域の良さについて理解する機会を今回提供することで、「地元」の良さや大切さについて学んでもらうことができた。発表を聞きにきてくださった11人のご家族や地域の方々に対して、中学生の発表を聞くだけに留めず、一緒に自分の街の好きなところを絵に描く活動を行い、それを発表していただく場ももうけた。大学生も自分たちがまちを巡る中で感じた感覚、自分の感情で感じた感情を絵という形でアウトプットし、フィールドワークの成果を可視化する体験をした。そうすることで長谷部葉子研究会が大切にしている「ソーシャルトランスフォーメーション」を普及することができたと考えられる。大学生としても、普段研究会で関わっている地域ではありながら、特別研究プログラムであるからこそ築くことができた関係性があり、だからこそその気づきや学びがあったと感じている。



また、参加者である中学生に加え、木曾町の、主に開田高原に住む地域住民の方々をお招きして食事を兼ねた交流会、そして観光地の訪問などの形で、たくさんの地域の方々と交流することができた。交流会では中学校の合併や高齢化など、地域が抱えるさまざまな問題やそこに対する住民、役人の様々な想い、また住民の思う地域の魅力についても共有する場を設けることができ、中学生にとってのみならず、我々にとっても地域の現状、住民の生の声を知るとも貴重な機会となった。地域の観光地の中では木曾おもち美術館に訪問させていただき、地域の魅力、そしてその地域を守り人に伝えていく地域の大人の姿をリアルに実感することができた。地域の方々に我々の活動を周知することにも繋がったため、研究会としても大学生としても重要な機会となった。



今後の展望としては、我々Local Active-learning Projectのビジョンである「全ての地域の子供たちが多様な人との関わりを通して自分と地域を見つめ自分らしい将来を創造できる社会」の実現を目指し、今後の実施内容を模索していきつつ、それから得られる効果の言語化を進めていきたいと考えている。まずはこの地域が、我々のビジョンを達成したモデルケースとなるように、今回実施したサマーキャンプでの中学生の「自己理解」を通じた未来設計への変化を分析するとともに、我々が日常的に行っている学習支援活動「マナビバ」、職業インタビュー企画の「御嶽タイム 仕事インタビューツアー」、SFC来訪企画「君だけのオープンキャンパス」の企画を通して、「外の世界」を見る、すなわち「異文化理解」を通じた中学生の未来設計への変化について研究を続けていきたい。